

3月豊橋市議会後援記 ④

地方政治 クリエイト **伊藤 秀昭**

豊橋市議会3月定例会本会議は3月1日、開会し、佐

原光一市長は予算大綱を説明する中で、持続可能な地域づくりを進め、飛躍するための「新たな一歩を進める」と決意を述べ、新年度を

「市制施行110周年を迎える記念の年」「まちづくりの節目の年」と位置づけ、人口減少社会に適した新たな社会システムを構築するとして、9つの重点施策を挙げた。

これを受けて7日に4会派が代表質問を行った。

■次期市長選へ

36人の議員のうち、21人を擁する自民党豊橋市議団団長の藤原孝夫氏は

まずこれまでの取

みについても新たに司令塔となる「地方創生推進室」を設け、機動的、かつ積極的に推進していくとやる気をみせ

た。市長は「豊橋を元気で魅力にあふれたまちにしたい、将来に希望を持ち安心して暮らせるま

ちにしたいとの強い決意を持って7

年間市政を担ってきた」として、元気な街づくりを進めるために産業、安全で安心な環境づくり、教育などの多彩な取り組みを列挙した。これには藤原氏も「頑張ってきたことは誰しもが認めること

だ。女性性の活躍推進 5人の公明党豊橋市議団を代表して沢田都史子氏は、女性

が活躍できるまちづくりについて質問した。

市長は「豊かで活力ある社会を創造するためには、女性が個性と能力を発揮できる環境づくりが大切である」として「若い世代が家庭を築き、安心して子供を産み育てられる環境を地域ぐるみで整備していく」と答え

た。澤田氏は切れ目のない子育て支援の体制づくりとして、豊橋版ネウボラである「子育て世代包括支援センター」の構築を要請した

が、これにも市長は「安心して子育て環境づくり戦略を着実に推進し、切れ目のない包括支援体制により、安心して子供

を産み育てやすい街づくりを進めていく」とした。

市長は「豊橋市の大きな特徴であり、強みでもある農業や、多様なものづくり産業を生かした取り組み、多子世帯に対する保育料などの本市独自の負担軽減、他市にはない子育ての拠点施設「ほいっふ」とこ

市政に声援と警鐘と懸念

共産党市議団を代表して登壇した斎藤啓氏。

「市民生活の実態を踏まえた上で、どのように新年度予算編成にあたったのか」と質問した。

これには市長は「本市の景気動向については穏やかながらしっかりと回復の足取りを感じている。この回復基調を継続させ向上させることが大切であり、市民生活にゆとりをもたらし施策を多く盛り込み、新年度予算を編成した」と答えた。

また斎藤氏は広域連合が発足して1年がたつが、この先の介護保険事業の広域連合への移行に最大の関心を持っており、広域化が良い制度につながるのかとの懸念が払拭されない」と指摘した。